

よりよい水環境を保全するために

2003年の春、宮城県議会環境生活委員会では「宮城県水道水源保全条例」の制定にむけ、研究会を発足させました。これに対し、MELON水部会ではよりよい「宮城県水道水源保全条例」づくりのための行動をみやぎ生協と共同ですすめています。

これまでに宮城県議会、宮城県担当部局との懇談をそれぞれ行いました。水部会では懇談の中で伝えたい内容を整理し、MELONとみやぎ生協の連名での「宮城県水道水源保全条例制定に関する要請書」を、宮城県知事、宮城県議会 2003年11月26日(水)に提出しました。



条例制定の動きに関しては情報開示を行い、県民が声を出していけるような状況づくりをしていきたいと考えています。水部会では、2004年度は「水源保全についての学習と水源地域の視察」をテーマに活動する予定です。皆さんも一緒に水源保全について学習しませんか？水部会では部会員を募集しています。どうぞお気軽に事務局までご連絡ください。

要請書の内容はMELONのホームページ上でご覧いただけます。

<http://www.melon.or.jp/melon/>
トップページ 活動紹介 水部会へ

ともに生きるために



電気店の冷蔵庫売り場に行くと、フロンを使わないで冷やす冷蔵庫がいくつも展示されていてまた、よく売れてもいるようです。フロンはオゾン層を破壊することがわかっていて、日本でもやっと、これに代わる地球温暖化への影響がとても小さなガスを使った冷蔵庫が普及することになったわけです。

地球の環境問題を語るときに、南極でのさまざまな観察・観測の結果がよく使われます。温暖化を促す二酸化炭素の濃度の増加など人間が登場するずっとずっと昔の環境も調べることができますし、人間が使ったフロンがオゾンホールをもたらしたのも南極でした。

さて、このオゾンホールを発見したのは日本の南極観測隊だったということはあまり知られてはいません。このような観測や測定はわかっていることだけではなく、これから地球環境に警告をならすような新しいことが発見されるかもしれません。ところが、昨年末、政府はイラクに軍隊を送る費用は、ニコニコ・ポンっ！と出したのに、地球環境を知る上

でとても大事な南極越冬隊を送る南極観測船「しらせ」の次の船をつくる予算を当初は認めませんでした。

トロテー・ヘンティエス作、フィリップ・ヴェヒター絵、服部いつみ訳「みんなペンギン」(セーラー出版)は南極のペンギンの物語です。見た目や考え方が自分たちと違うペンギンをどう受け入れ、仲間はずれにしたり、争ったりするのではなく共に生きていくことの楽しさをユーモラスに描いているドイツの童話です。オゾンホールができてたり、温暖化でこのペンギンたちがくらす氷が溶けはじめてたり、地球環境に関する大変なことが起きている南極のペンギンたちが教える「ともにくらす」ことを、私たちは毎日の生活の中でどう考えたらいいのでしょうか。

第五のクンレン

子どもたちの教科書に載っているような短い詩を一編探し出してきて...何でもかまいません。暗記しましょう。暗記したらいろいろな動きの中で語ってみましょう。ご飯を食べながら...は無理ですから、掃除機を動かしながら、読み散らかした本を片づけながら、体操をしながら、ランニングをしながら、忍び足で、スキップしながら。体のリズムが読み方にどんなふうに関わってくるのか



を調べてみましょう。